

伊丹福音ルーテル教会 復活後第二主日礼拝のしおり

2022 年 4 月 24 日

前奏

招きのことば：詩編 116 編 1-7 節

わたしは主を愛する。主は嘆き祈る声を聞き わたしに耳を傾けてくださる。
生涯、わたしは主を呼ぼう。死の網がわたしにからみつき、陰府の脅威にさらされ、
苦しみと嘆きを前にして 主の御名をわたしは呼ぶ。「どうか主よ、わたしの魂をお救いください。」主は憐れみ深く、正義を行われる。わたしたちの神は情け深い。哀れな人を守ってくださる主は 弱り果てたわたしを救ってくださる。わたしの魂よ、再び安らうがよい 主はお前に報いてくださる。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。
私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

イエス様はきのうも今日もいつまでもかわることのないお方です。私たちが喜ぶとき、そこで支えてくださいます。疑いと絶望の中にいるとき、私たちが信じる心を持てるようにしてください。恵みと平安を与えてくださいます。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐために、緊張感を保たなければなりません。その中でも 御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々を与えてください。この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：ヨハネの黙示録 1 章 4-8 節

ヨハネからアジア州にある七つの教会へ。今おられ、かつておられ、やがて来られる方から、また、玉座の前におられる七つの霊から、更に、証人、誠実な方、死者の中から最初に復活した方、地上の王たちの支配者、イエス・キリストから恵みと平和があなたがたにあるように。わたしたちを愛し、御自分の血によって罪から解放してくださった方に、わたしたちを王とし、御自身の父である神に仕える祭司としてくださった方に、栄光と力が世々限りなくありますように、アーメン。見よ、その方が雲に乗って来られる。すべての人の目が彼を仰ぎ見る、ことに、彼を突き刺した者どもは。地上の諸民族は皆、彼のために嘆き悲しむ。然り、アーメン。神である主、今おられ、かつておられ、やがて来られる方、全能者がこう言われる。「わたしはアルファであり、オメガである。」

福音書朗読：ヨハネによる福音書 20 章 19-31 節

その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。そう言って、手とわき腹とお見せになった。弟子たちは、主を見て喜んだ。イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」そう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」十二人の一人でディディモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたとき、彼らと一緒にいなかった。そこで、ほかの弟子たちが、「わたしたちは主を見た」と言うと、トマスは言った。「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。」さて八日の後、弟子たちはまた家の中におり、トマスも一緒にいた。戸にはみな鍵が掛けてあったのに、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、

わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」トマスは答えて、「わたしの主、わたしの神よ」と言った。イエスはトマスに言われた。「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。」このほかにも、イエスは弟子たちの前で、多くのしるしをなさったが、それはこの書物に書かれていない。これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである。

讃美歌 148 番

- 1 すくいぬしは ハレルヤ よみがえりたもう ハレルヤ かちどきあげて ハレルヤ
み名をたたえよ ハレルヤ
- 2 十字架をしのび ハレルヤ 死にて死にかち ハレルヤ 生きていのちを ハレルヤ
ひとにぞたまふ ハレルヤ
- 3 主の死によりて ハレルヤ すくいはなりぬ ハレルヤ あまつつかいと ハレルヤ
ともにぞうたわん ハレルヤ **アーメン**

説教：「信じるものになりなさい」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

イエス様が死人の中からよみがえってくださったイースターの季節です。毎年、礼拝でイースターのご挨拶をしています。「ハレルヤ、イエス・キリストはよみがえられました」と言いますから、皆さんは、「ハレルヤ、イエス・キリストはたしかによみがえられました」とおっしゃってください。

牧師：ハレルヤ、イエス・キリストは、よみがえられました！

会衆：ハレルヤ、イエス・キリストは、たしかに、よみがえられました！

私たちは、先週の日曜日にイエス様の復活をお祝いしました。イースターでしたね。そして、一週間後の今日も、ハレルヤ、イエス様が確かによみがえられました、と告白しています。

さて、今朝読まれたみ言葉は、復活の日曜日から一週間後、ちょうど今日のタイミングです。イエス様は再び弟子たちにあらわれ、そこにいたトマスにむかって、あなたは復活したわたしをその目で見たので信じたのか、「見ないで信じる」人は幸いです、と言われました。

トマスは前の週の日曜日、つまり、イエス様がよみがえった日に、どういうわけか弟子たちと一緒にいませんでした。復活のイエス様に会いませんでした。それで心配した弟子たちが、トマスを探し出して、イエス様はよみがえってくださったよ、と知らせました。せっかく親切に

声をかけてくれたのに、トマスは「わたしは証拠を見ないと信じません」とつぶねました。トマスは正直に自分の気持ちを伝えたのでした。よみがえったという方の手に、十字架で釘付けされたときにあけられたくぎの跡があるのを見ないと信じない、十字架上で兵隊たちに下からわき腹を槍で突き上げられたときについた傷跡にこの手をいれて確認してみないと、私には信じることはできない、と言ったのです。

トマスは自分の心に正直な人でした。かつてマルタとマリヤの兄弟のラザロが死んでしまったときイエス様がラザロを訪ねると言われたとき、仲間の弟子たちに呼びかけて「私たちもイエス様と一緒に死のうではなにか」と言いました。イエス様が死んだラザロのところにいくと言われるのなら、私たちは弟子なので一緒に死のう、と真剣に覚悟をしたのです。まさかイエス様がラザロをよみがえらせるためにお訪ねになるとは思っていませんでした。最後の晩餐のときにイエス様が弟子たちに、わたしが今から行く道はあなたがたも知っています、と言われたとき、トマスは「イエス様、わたしたちにはわからないです、わかるはずがないじゃないですか」と答えました。十字架の道を歩むこともその意味もまだ全くわからないでいたのです。このようにまっすぐで、自分の思いに正直であったトマスにイエス様はよくご存じでした。

次の日曜日、イエス様は再び、集まっている弟子たちのところに現れました。トマスも一緒にいました。イエス様はトマスが友達の弟子たちに言っていたことばをご存じでした。挨拶のあとイエス様はすぐトマスに語り掛けました。「あなたの指を私の手にあててみなさい。手を伸ばしてわき腹にいれてごらんなさい。信じない者ではなく信じる者になりなさい。」トマスはどれほど驚いたことでしょう。イエス様が自分の気持ちをちゃんと知ってくださっている。そして私のために現れて、語り掛けてくださっている。それでトマスは確かによみがえられて目の前に現れてくださったイエス様を「私の主、私の神よ」と信じる信仰を告白しました。

ここでまず第一に、イエス様はあなたに信仰を与えてくださる、ということを覚えましょう。弟子たちは自分たちもとらえられて苦しめられるかもしれない、とユダヤ人の指導者たちを恐れて、家の戸に鍵をかけて扉を固く閉じていました。人とのかかわりを恐れて身を寄せ合っていたのです。よみがえったイエス様はその新しい体で扉を通り抜けて彼らのいる部屋の真ん中にたってくださいました。そして「あなた方に平和があるように、平安があるように」と言われました。手とわき腹をみせてご自分が本当にイエス様であることを示し、わたしが父から遣わされたようにあなたがたをも遣わす、と息をふきかけて罪の赦しの鍵を与えました。弟子たちはそこに入ってきてくださったイエス様によって、またイエス様を信じる信仰と、使命をいただきました。最後の晩餐の時に、これからお弟子たちはイエス様の血と体をいただくように配慮をされました。このときは釘で打ち抜かれて血を流された手の傷と、槍の突き刺されたわき腹の肉の傷を見せていただきました。弟子たちは主を見て喜び、遣わされた者としてトマスに復活の主の赦しといのちを証したのです。

同じイエス様は私たちにも信仰を与えてくださいます。神様を恐れ、人の顔を恐れる私たちです。被害にあって苦しまないように心細くなって、友達と一緒にいても安心できない私たちのところに、復活のイエス様が私たちのために負ってくださった十字架の御傷を示して、恐れることはない、と語り掛けてくださっています。私たちに、イエス様に信頼する信仰を与えてくださり、私たちも罪を赦して新しいいのちを与えてくださる救い主、イエス様が確かに生きておられることを人々に伝えて役に立っていく生きがいを与えられています。

トマスは困っていました。みんなイエス様がよみがえったという。けれども恐縮だけど自分は納得していません。正直に言うと、本当にそうなのかな、と疑っています。でもトマスは、疑いたいと思って疑っているのではないし、どんなことがあっても絶対私は信じない、とかたくなになっているのでもありませんでした。信じれるのなら信じたいと思っていたでしょう。もそれでもまだ疑っている気持ちのまま弟子たちと集まりました。そこにイエス様が現れて真ん中にたってくださって、トマスに語り掛けてくださいました。イエス様はイエス様がそこにいなかったのに、トマスがみんなに言っていたことをご存じでした。そしてトマスが信じることができるように願って助けてくださいました。

このように復活してくださったイエス様は、心の扉を閉ざし恐れていた弟子たちにも、ほかの人が喜んでいても自分としてはまだ迷いの中にいるというトマスにも、イエス様を信じる信仰をお与えくださっています。弟子たちはとても喜びました。イエス様が信仰を与えてくださいます。

さて第二に、私たちには聖書によって復活の信仰が与えられることを覚えましょう。弟子たちはイエス様の復活の目撃者です。では、復活のイエス様に実際会わなかった私たちはどのようにしてこの「見ないで信じる」信仰が与えられるのでしょうか。このお話の続きに書かれている20章の31節に示されていますね。ヨハネによる福音書は、これを読む人々、これを聞く人々がイエス様が神の御子、救い主であることを「見ないで信じる」ために書かれました。そして私たちがイエス様のお名前によって、つまりイエス様の保証によって新しい信仰の命に生きることができるために書かれたのです。聖書のみ言葉によって私たちはイエス様に会い、イエス様の与えてくださる命にあずかります。「見ないで信じる」信仰が与えられます。

確かに信仰は見えないものを信じることです。見たのだったら、もう信じるも信じないもないですね。信仰は、私たちは肉眼でみることができず、確かめることができないことでも、神様が聖書の中で私たちに確かに約束してくださっている、という理由で、心から信じて歩むことです。理性や感性で理解し確認できなくても、私たちは、移り変わっていく見えるところのものにたよるのではなく、変わらない聖書のみ言葉を信じ、目には見えませんが確かによみがって今も私たちとともにいてくださるイエス様を信仰によって信じきって歩みます。私たちは、自己中心と不敬虔な罪を悔い改め、主イエス様によって確かに罪を赦されて、こんなものにも新しい命を与えてくださった幸いを、自分の意味ある宝物として歩みます。

よみがえられたイエス様のことを私たちは聖書のみ言葉によって知らされます。イエス様はヨハネによる福音書 5 章 39 節で「あなたたちは聖書の中に永遠のいのちがあると考えて、聖書を研究している。ところが、聖書はわたしについて証しするものだ」と言われました。空想のお話ではなく、誰かの作り話ではなく、神の言葉である聖書の御言葉を通して、神様が私たちに語り掛けてくださいます。私たちは信仰の実りである救いを受けていますから、ペテロ第 1 の手紙 1 章 8 節のように「イエス様を目で見えていないが愛し、見なくても信じていて、ことばに尽くせない喜びに満ち溢れています。」

そして第三に、礼拝において私たちの信仰が与えられ、強められることを覚えましょう。イエス様が復活されたのは週の初めの日、日曜日でした。トマスは次の日曜日には一緒に集まりました。八日目、とありますがその日を数えて八日目は次の日曜日です。再び弟子たちの集まったところにイエス様が来てくださいました。日曜日の礼拝で聖書のみ言葉が語られるところに復活のイエス様の証しがあります。よみがえられたイエス様が、あなたに語り掛けておられるのです。あなたの心にイエス様が来てくださるのです。本心からイエス様に信頼して喜ぶ信仰が与えられるのです。

お弟子たちはトマスを責めていません。正直なトマスの心を受け止めています。そして、イエス様を待ち望んでともに集まるところに彼を招き、そして受け入れています。これが礼拝者の姿ですね。このようなトマスへの態度がイエス様にお出會いした者の姿であり、使命なのです。

それ以上にイエス様は、復活の朝、ほかの弟子たちと一緒にいなかったトマスを中心にかけました。そこにいないことを覚えておられました。そして、トマスが信じることができるために、次の日曜日に再び弟子たちに現れました。トマスにまず語り掛けてくださいました。自分の心に正直だったトマスが、心から信じることができるように、イエス様は温かく助けてくださいました。そこでトマスはイエス様から「見ないで信じる」信仰を与えられました。「私の主、私の神！」と心から信仰の告白をする者となりました。イエス様は私たちが信じることができるために、礼拝において私たちに語り掛け、私たちを助けてくださいます。

それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」ヨハネによる福音書 20 章 27 節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と意思をキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

牧師：ハレルヤ、イエス・キリストは、よみがえられました！

会衆：ハレルヤ、イエス・キリストは、たしかに、よみがえられました。

讃美歌 146 番 献金 献金感謝の祈り

ハレルヤ、ハレルヤ、ハレルヤ

1 戦い 終わりと み栄え 受けたもう 主をほめたたえよ ハレルヤ

2 いのちのきみこそ 終わりのあだなる 死に勝ちましけれ ハレルヤ

3 きよけき あしたに 陰府(よみ)よりのぼりて この世を続べたもう、ハレルヤ

4 主の死に生かされ 御傷(みきず)にいやさる 喜びたたえよ ハレルヤ アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。

みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。

われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。

国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讃美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、ああみ栄えよ。アーメン

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。アーメン

後奏